

## 梅窓院通信

秋彼岸号

No. 126  
2023/09/01

青山



ご先祖様にお花をお供えしましょう。協力 株式会社花君ホールディングス

## 住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島真成

今回の表紙はお墓参りには欠かせない仏花です。梅窓院受付では、手ぶらでもお参りできるようなお花を準備しておりますので、是非ご利用下さい。

さて、猛威を振るい、私達の生活を大きく変えたコロナもいち段落しました。とはいえ、コロナが姿を消した訳ではありません。まだまだ気をつけなくてははいけません。が、すこしずつ元の生活に戻していきたいものです。

昨年に続く開山忌法要・能楽奉納では、マスクの着用についてはご自身の判断に委ねてご覧頂きました。やはりマスクなしの皆様のお顔を拝見できるのは嬉しいものです。

「念仏と法話の会(念法会)」にも活気が戻ってきました。六月の念法会からは浄土宗東京教区の教化団長、豊島組浄心寺住職の佐藤雅彦上人にお話しして頂いています。この十月、来年二月と全三回の連続で法話を頂きます。生命倫理を学ばれたご僧侶で、その経歴を活かされた法話は人気です。佐藤上人には今号の特集に、そして次号でも東京教区教化団長として浄土宗開宗八五〇年の東京教区の記念行事のお話を伺う予定です。まさに時の人です。次回、十月五日の念法会にどうぞご参加下さい。

この念法会とともに梅窓院の恒例行事となっている仏教講座ですが、今号の「梅窓院を囲む人々」にご登場頂いた林田康順先生が、十月から来年三月までの後期講座をお休みされます。浄土学の第一人者である先生だけに大学をはじめ多忙を極められている様子です。わかりやすい講座で楽しみにしている方も多いかと思いますが、どうぞご理解下さい。来春にはお会いできますので。

十一月の十夜法要では、城南組大信寺住職の中村孝之上人の歌声をお聴き頂きます。法然上人の書かれた「一枚起請文」などを中村上人が作曲。テノール、バリトン歌手、そしてピアニストも加わった演奏会となります。是非、お足をお運び下さい。

さて、九月からは新本堂が竣工し二十年目の大規模修繕に入ります。施設的には若干のご迷惑をおかけしますが、新たな経済的ご負担等はございませんので、どうぞご安心下さい。



秋の声

新宿区 香蓮寺住職

勝崎 裕彦

中

唐の詩人劉禹錫が友人白樂天に寄せた新秋の五言律詩の尾聯は、

相知尽白首 相知尽く白首

清景復追遊 清景復た追遊せんや

(親しいつきあいをしてきた知人友人もみな年老いてしまった、すがすがしいよき光景を再びまたたのしむことができらるだろうか)

と詠い結ばれている。

劉禹錫は晩年、白樂天と親交を深くし、白樂天から「詩豪」と讃えられた人である。心を許した友との気おけない情味に満ちたなごやかなつきあひ、かけがえのない交友を、お互いに齢を重ねてきていつまで共にすることができるであろうか。季節は秋、物思いに寄せて、今改めて秋の声を聞いてなぜかうらさびしい。以下、秋の句を拾って、劉禹錫の詩心を追い求めてみたい。さて秋の句から秋声を聞くと見えれば、まず秋の虫の音が挙げられよう。俳諧・俳句の世界では虫は秋の季語と決まったもので、虫の声・虫の音・鳴く虫・虫鳴く・虫時雨・虫聞など、秋に鳴く虫に寄せた言葉も多く、まさに秋の秋なのである。蟋蟀・螽斯・鈴虫・松虫・馬追・轡虫など、いずれも鳴き声を聞き分けて名前がつけられたのである。

ツクツクト我影見ルヤ虫ノ声  
サマザマノ虫鳴ク夜トナリニケリ  
(子規)

明治三十四年九月九日、死の一年前、正岡子規の『仰臥漫録』に書かれてある句である。病床に長くあつて見聞の限られた子規にとつて秋にすだく虫の音は一つの大切なやすがであつたことであろう。

虫なくや我れと湯を呑む影法師  
(普羅)  
虫聞くや庭木にとどく影法師(素十)  
子規が虫の声を聞きながらじつと見つけた病身の影から、前田普羅は湯呑み茶碗を手にした自分の影、そして高野素十は「庭木にとどく」自分の影、普羅と素十の句にはすでに年を経たおだやかなゆとりが示されている。

瑠璃光仏閻浮の闇は虫しぐれ(秋邨)  
形見分けして墓のこりけり虫の秋  
(蓼汀)  
仏教句である。加藤秋邨の句は、無量無辺の光り輝きにあふれる瑠璃光仏の光明と閻浮提人間世界の暗黒を対比して、一つながら秋の虫のしきりにすだく鳴き声にはるかに対置されている。

最後に「只管写生」(ただひたすらの写生)に徹した上村占魚の句に、虫の声の恵みを静かにかみしめたい。ところで朱子学の大成者朱熹の有名な詩「偶成」は、「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰 軽んずべからず」と訓戒したあと、  
未覚池塘春草夢 未だ覚めず 池塘  
春草の夢  
階前梧葉已秋声 階前の梧葉 已に  
秋声

福田蓼汀は虚子門の「ホトトギス」同人であるが、山と自然を愛した山岳俳人として有名である。最愛の肉親を亡くして遺された墓前に秋の虫の音が淋しい、そしてせつない。  
夜は夜の天の恵みに虫鳴くも(占魚)

という味わい深い詩句で詠嘆されている。たしかに私も今、秋髪は白一色、春の夢もすでにかぎりなく遠く、秋の声はむなしく聞き逃して、もはや冬の足音を現前に冷たく聞いて、ただただ愕然、いや呆然としているにすぎない。しかしそれだけに今秋、この秋の声を、一刻一音、決して粗末にはならない、無駄にはしてはならないのである。  
(大正大学名誉教授)

5・6・7月の行事報告

施餓鬼会法要  
5月20日(土)



第83回念仏と法話の会  
6月15日(木)



開山忌法要・能楽奉納  
6月10日(土)

郡上おどりin 青山法要  
6月16日(金)



盂蘭盆会法要  
7月13日(木)



ご法要の受付は1階観音堂にてお済ませ下さい。

※祖師堂側からはお入り頂けませんので、ご注意下さい。

## 彼岸寄席

午後1時～ 地下2階 祖師堂

## 秋彼岸会法要

午後2時～ 地下2階 祖師堂

※場所や内容が変更になる場合がございます。



令和4年の秋彼岸の様子

### 三遊亭歌る多 師匠 プロフィール

1962年荒川区生まれ。1981年三遊亭圓歌師匠に入門。1993年女性初の真打ち昇進(女流枠)。2000年女流枠撤廃され、男性と同様の真打ち扱い。寄席・落語の会から、講演会・司会業、コラム執筆など活動の場は幅広い。2010年6月より落語協会理事就任。

前座:三遊亭さち

### 塔婆申込み方法

塔婆回向料…1本/7,000円

- お申込み方法  
同封のハガキにご記入の上、9月15日(金)必着でお申込み下さい。
- お支払い方法  
塔婆回向料は、同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、受付までお持ち下さい。(銀行・コンビニでのお支払いはできません。)  
なお、郵便局窓口で現金にてお支払いされる場合は窓口手数料110円が必要となります。詳しくは最寄りの郵便局にお問い合わせ下さい。  
払込取扱票に記載の口座番号00130-4-93033はお支払い金額ではございませんので、ご注意下さい。
- お塔婆のお渡し  
秋彼岸会法要終了後にお渡し致します。ご欠席の場合は後日、僧侶にて建てさせていただきます。

### お檀家様へお願い

- お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方の車で境内が大変混み合います。ご来寺の際は電車等、公共交通機関をご利用下さい。
- 9月20日～26日まで、境内駐車スペースは、お体の不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願い致します。
- 会場内の空調は微調整が難しいため、ご自身で温度調整できる服装でご来寺下さい。

### 秋彼岸会によせて

浄土宗開宗八五〇年記念事業法灯り  
令和版結縁交名について

まだまだ暑い日が続いておりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

先日、開宗八五〇年慶讃事業法灯りレーに全国浄土宗青年会(全国の浄土宗若手僧侶の会)の一員として出仕させていただきました。

法灯りレーとは法然上人が比叡山を下りてお念仏のみ教を広められたその足跡を辿り、み教えの灯が京都から全国へと広がっていく様を具現化するかのような開宗八五〇年を記念する特別な行事です。法然上人がご修行された比叡山青龍寺から法然上人のみ教えの象徴である法灯を吊灯籠に頂戴し、青年会員が総本山知恩院まで携えて念仏行脚しました。知恩院御門主伊藤唯真(いんげん)下(かいびやく)に開白法要の導師を務めていただき、この法要にて、各教区長様(教区:大まかに都道府県単位)へ分灯され、以降各教区長様↓各組長様(組:教区を複数の組に分けたもの。梅窓院は東京教区城西組)↓各寺院と法灯はりレーされます。

そして、全国の浄土宗寺院より檀信徒ならびに縁者の皆様へ法然上人のみ教えが行きわたった証として、令和版結縁交名と称し、法然上人の一周忌にあたり弟子の源智上人によって造立された阿弥陀如来立像の内部に収められていたお念仏に縁を結んだ方々、四万六千人もの署名に倣い、檀信徒・縁者の皆様に南無阿弥陀仏の一筆とご署名をお願いし集めるといふことです。当院では実施も含め検討中です。同時に各本山の行事などの際には順次署名運動が展開なされることでしょうか。

法然上人が比叡山を下り、そのみ教えを広められたことはもちろん、八五〇年に亘ってみ教えの灯をりレーしてくださった全ての先輩走者の皆様にも深く報恩感謝すると共に、このりレーの現走者として未来の走者へ運んでまいりたいと思いを新たにします。

まもなく秋のお彼岸でございます。皆様とご一緒にお念仏できることを楽しみにしております。

(副住職 中島真紹) 合掌

### 令和5年度 秋のペット慰霊法要のお知らせ

梅窓院僧侶がご供養を勤めます。ぜひご参列下さい。

開始時間:正午～ 2階本堂

主催:株式会社ジャパンエキスパートシステム



### 秋彼岸とは

古代から死者に花を供える習慣があったそうですが、墓前にお花とお線香を供えるのは、ご先祖への思いを伝える一番のご供養です。そして手を合わせ、心の中で亡き人を思い、お念仏を称える。年に2回のお彼岸にはどうぞご家族みなさんでのお墓参りを。

# 念仏と法話の会

## 講師・佐藤雅彦上人を訪ねて

今号の特集では、令和五年六月から令和六年二月までの「念仏と法話の会」（以下、念法会）の講師を務めて頂きます東京教区・豊島組の浄心寺住職 佐藤雅彦上人の魅力をお伝え致します。



### 梅

窓院恒例の念法会、六月に開催した佐藤上人の初回では「いのちを学ぶ」と題した法話に参加者全員が聞き入っていました。

「二回目では死の導入部、死の全体像についてお話をさせて頂きました。仏様の教えが立派でも相手に伝わらなければ意味がありませんから、聞く人が現代社会の何に苦しみ悩んでいるのか、そして何を求めているのかを意識して話しています」

と、佐藤上人は最初の法話を振り返られました。日本は今、団塊世代の高齢化もあり死亡数が急増、まさに多死社会、身の回りに「死」が溢れる時代を迎えます。

死んだら自分の魂はどうなるのか、来世はあるのか。こうした不安に答えたい、というのが佐藤上人のスタンスです。そしてその原点は生命倫理を学ばれたことにあり、きっかけは浄土宗が以前掲げたキャッチコピーだったそうです。

「善導大師の没後一三〇〇年に際し、浄土宗が『いのちを考える』というメインテーマを打ち出しました。

当時（昭和五十五年）は、在宅死より多くなった病院死をどう支えるか、試験管ベイビーの賛否、脳死と心臓死はどちらが本当の死なのか、など命と死が社会問題として人々の関心を引きつけていました。その状況下、私は浄土宗がしっかり答えを出してくれると期待をしていたのですが、浄土宗だけでなく伝統的な仏教は答えを出しませんでした」

その最中、佐藤上人はアメリカのジョージタウン大学ケネディー倫理研究所に初めての仏教研究者として留学されました。日本と世界ではもの見方やスピード感が全然違う、と気付かされたそうです。

二年間の留学後は病院と連携し、ターミナルケア活動を始められました。お坊さんは人が亡くなってから関わるだけという現状では、お寺、ひいて

は仏教が人々から遠い存在となってしまう、という危機感から取り組んだ活動でした。かつて、病院で新興宗教が強引な布教をしていたことから、病院は宗教に一線を引いていた中での画期的な活動だったそうです。

「四面楚歌の中でも私が病院から呼ばれたのは、人は科学一辺倒ではないからです。患者さんから『退院は大安の日がいい』という要望があるように、人は目に見えない願掛けや信仰に大きな価値を見い出しているのです」

いのちの問題に仏教が深く、そして強く関わるべきという佐藤上人の話、念法会でぜひお聞き下さい。皆様のご参加、心よりお待ちしております。



優しい笑顔が素敵なお坊さんだが、常に生命倫理を追究してきたストイックなお坊さん。

## プロフィール

浄心寺住職

## 佐藤 雅彦 上人

一九五八年東京生まれ。大正大学大学院博士課程修了。生命倫理研究のため、客員研究員としてアメリカに留学。

浄土宗東京教区 教化団長、大正大学非常勤講師、浄土宗特任布教師、東京教区豊島組・浄心寺住職。ボランティア活動として、末期がん患者への「心のケア・ボランティア」や、子どもにいのちや死を教える「いのちの授業」を積み重ねている情熱的なお坊さんです。

## 浄心寺のご紹介

浄心寺は文京区にあり、参道入口の大きな布袋様がシンボルのお寺です。

元々は駿州（現静岡県）の創建と伝えられ、江戸幕府が開かれた機にこの地に移転しました。

写真の巨大木魚は先代住職があつらえたもの。奥には巨大な鐘もあります。



木魚ぼんちの撥ぼちも特大級で取材班全員持ち上げることは出来ませんでした。

## 第84回 念仏と法話の会 — 10月5日(木)開催

### 「大切な人の死からいのちを学ぶ」

お申込みは梅窓院ホームページ、もしくは同封の申込書を梅窓院受付にお持ちいただくかお電話・FAX・メールでも受け付けております。

梅窓院 広報檀信徒部  
 電話番号：03-3404-8588(受付時間9～17時)  
 FAX番号：03-3404-8436  
 E-mail: bunkamura@baisouin.or.jp



念法会の申込はこちらから

## 佐藤上人からのメッセージ

2回目の念法会では、避けては通れない大切な人の死、そして3回目(来年2月1日(木))では自分自身の死についてお話を予定。2回目からのご参加でももちろん大歓迎、皆様の身近にある必ず向き合わなければならないいのちの問題について、ご興味がありましたら、是非ご参加下さい。

梅窓院の仏教講座の講師シリーズの第3回は、横浜は生麦の慶岸寺ご住職、大正大学教授の林田康順先生にご登場頂きました。浄土学を専門にされている浄土宗を代表する先生です。

◆梅窓院から最初に仏教講座をお願いさせて頂いた時はどう思われましたか。

林田康順先生(以下林田) たいへん光栄に思いました。他の高名な講師の先生方の足もとにも及びませんが、伝統ある梅窓院仏教講座の名前を汚さぬよう、精一杯、自分なりに精進して進めようと思いました。

◆梅窓院とのご縁はこの仏教講座から始まるのでしょうか。

林田 そうです。15年前になりますが、当時大先輩である勝崎先生から度々お誘いをいただいております。そうした中、大本山増上寺様で中島真成ご住職様とお会いした時に直々にお声掛けを頂きました。とてもありがたかったことを覚えております。

◆仏教学、とりわけ浄土学が専門と伺っていますが、講座のテーマを決める際の視点や理由をお聞かせ下さい。

林田 大学の授業ではありませんから、あまり専門的にならないように気をつけています。何と言っても参加して下さる方々にとって「親しみやすく、分かりやすいこと」を第一に考えてテーマを設定しています。

◆講座でお話をされる際に心掛けられていることは何でしょうか。

林田 今申し上げた「親しみやすく、分かりやすいこと」を目指し、「大きな声ではっきりと」を心掛け、さらに「楽しく和やかに」も忘れずにしています。近年は、デジタル環境の向上により、映像を映し出すなどして、参加して下さる方の理解が進みやすいように工夫しています。

◆確かに先生の講義は聞きやすいと好評です。これからのテーマをお教え下さい。

林田 現在、私の講座では「日本仏教の歴史」を取り上げています。今年度は、天台宗祖・伝教大師最澄、真言宗祖・弘法大師空海など平安仏教を中心



生麦にある林田先生が住職を務める慶岸寺の本堂。



に致します。来年度は、浄土宗祖・法然上人をはじめとする鎌倉仏教に入る予定です。どうぞ、一人でも多くの方にご参加頂けることを心からお待ちしています。

◆後期はお休みされると伺っています。受講生に向けて一言お願い致します。

林田 勝手を申し上げ誠に恐縮ですが、諸事情により少しお休みさせて頂きます。申し訳ございません。令和6年の春から、よりパワーアップして再開予定です。皆さんとお目にかかるのを楽しみにしております。

合掌



受講者のことを第一に考えて下さる講座です。

## プロフィール

大正大学教授、大正大学仏教学部長、東洋大学大学院非常勤講師、記主禅師研究所所長、浄土学研究会理事長、浄土宗教学院副理事長、浄土宗総合研究所研究員、三康文化研究所研究員、神奈川県慶岸寺住職など。『なむブックス⑬(私)をみつめて—法然さまのやさしい教え—』(浄土宗出版室)、『青春新書 図説あらすじでわかる! 法然と極楽浄土』(青春出版社)、『浄土宗の常識』(朱鷺書房、共著)など、著書・論文多数。

# 青山散歩道

## 鮭トキドキ串 海老虎

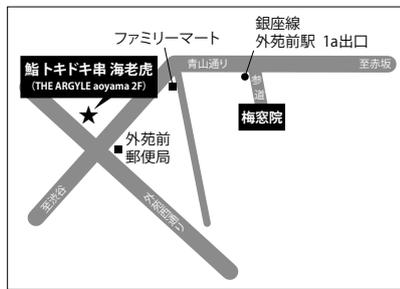
梅窓院から徒歩3分、バルコモンズ跡地に開業した  
オフィス・ホテル・商業の複合ビルTHE ARGYLE aoyama

の2階にある「鮭トキドキ串 海老虎」をご紹介します。

店内はスタイリッシュモダンなインテリアで統一されている上品な和空間が広がっています。

心を込めて仕上げたシャリはブランド米の岐阜県産「龍の瞳」と赤酢を使用。新鮮なお魚と旬の味覚を贅沢に使った江戸前鮓を愉しむことができます。

ディナーではなんと、鮓と一緒に串揚げも堪能頂けるそうです。上質なクオリティですが、手が届く価格帯にこだわる粋なお店です。



営業時間/  
ランチ 11:30~14:30(14:00 L.O.)  
ディナー 18:00~22:00(21:00 L.O.)

定休日/不定休  
※最新情報は店舗まで直接お問い合わせ下さい。

席数/30席

住所/東京都港区北青山2-14-4  
THE ARGYLE aoyama 2F  
TEL/03-6271-5539



カウンターでは職人が温かく出迎えてくれて、丁寧な仕込みを随所に感ずることができます。



旬の食材をふんだんに使用した絶品ランチ。

お子様連れも大歓迎とのことなので、墓参帰りや法要後にぜひ足を運んでみて下さい。青山でご家族皆さまと至福の時間を共有できること間違いありません。

# 青山俳壇

選者「ウェブ俳句通信」編集長  
大崎 紀夫

### ◎特選

○少しづつ母は遠くへ余花の雨

### ◎入選

○真剣に見入ってしまう蟻地獄

○扇風機の動きにあわせ子もうごく

○サボテンの花を間近に見れば棘

○七月の風が来てある展望台

○半夏生無人販売所の野菜

○積木ある小児病棟梅雨の晴れ

○管理人積りし夏の落葉掃く

○水やうかんおもちやのやうな匙で食ふ

○雷が轟く家の中までも

◎選者誌

○独活の花バス停までの坂くだり

○ワンポイントアドバイス

「コロナ禍のなかで仲間と吟行に出かけることが少なくなりましたが、人の多いところを避けてひとりて吟行に出かけてみるのもいいかもしれません。ポツチ吟行というわけです。暑い日は昼間はやめて、朝とか夕方とかに近くをぶらり歩くこと。それで空を眺めたり、花を見つけたら、風に吹かれたりできれば、立派な吟行となります。

大崎 紀夫

### 投句募集

今回は「秋の季節」でご自由にお詠み下さい。10月21日(土)を締切、令和6年1月発送の『新年号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さい。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062 港区南青山2-26-38  
梅窓院「青山俳壇」投句募集係  
FAX:03-3404-8436(梅窓院 広報檀信徒部)  
メール:bunkamura@baisouin.or.jp

### 「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウェブ編集室  
電話03-5368-1870

# 食は命

第九十二回

秋の彼岸花  
咳を鎮め、むくみを消す

食養研究家  
武鈴子

秋のお彼岸のころになると、皇居の桜田濠あたりは一面、鮮やかな赤い花をつける彼岸花で紅く染まります。別名「マンジュシャゲ(曼殊沙華)」。

有毒植物ですが、鱗茎を水にさらして、毒抜きすれば食べられるため、救荒植物\*として利用されました。鱗茎をすりつぶしてのり状にしたものは、防虫の目的で衣類やふすまの下張りなどに用いられ、また、その毒性を借りて鼠やモグラ避けに土手や道ばた、田んぼの畦道やお墓の周辺に多く植えられました。

外用薬としては、腫れを引かせる効能に優れ、鱗茎をすりおろして肩こり、乳腺炎などに湿布薬として患部に貼り、腎炎などによる浮腫には、すりおろしたものを唐胡麻と混ぜて足の裏に塗布する民間療法も行われてきました。

漢方では鱗茎は「石蒜」という生薬名で、鎮咳、去痰、利尿、解毒、催吐などの効能があるとされており、この石蒜から得られたエキスは、市販の鎮咳薬に配合されています。

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉の通り、残暑も落ち着き気温がぐんと下がるこの時期は、空気も乾燥し肺や気管支のトラブルが起こりやすくなります。

彼岸花と同じ鎮咳の効能を持つ物に、蓮根・花梨・梨・柿・金柑・銀杏などがあります。この季節に旬を迎える食材が、この時期に起こりやすい症状を和らげてくれる効能を持つことに、自然の妙を感じずにはられません。

\*救荒植物… 飢饉の際に一時の飢えをしのぐ食糧として用いることのできる、山野に自生する植物。

会計報告を本誌に掲載させて頂いております。ご確認を宜しくお願い致します。

自 令和 4年4月 1日  
至 令和 5年3月31日  
(単位：千円)

■ 護寺費・年会費・墓地管理費

収入の部		支出の部	
護寺費・年会費として	103,647	浄土宗課金及び大本山宛志納金	2,898
		法要費(仏具・法衣・線香など)	25,034
墓地管理費として	25,220	保守修繕費(建物)	185,671
		保守修繕費(墓苑・境内)	24,801
梅窓院からの繰入金	157,765	人件費	41,536
		事務費(郵送費・コピーなど)	6,692
合 計	286,632	合 計	286,632

令和5年度  
後期 仏教講座のご案内

梅窓院では10月より「令和5年度後期仏教講座」を開講します。今年度後期は3名の先生が担当します。どうぞお気軽にご参加下さい。

※林田康順先生は休講となります。  
詳しくは別紙チラシをご覧ください。

梅窓院のお墓とペット供養の窓口

ジャパンエキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

まだまだ暑い日が続きますね。当社の墓苑代行作業に依頼される方が多くなりました。暑い中、無理にお参りして体調を崩したりしたらご家族も仏様も喜びません。遠慮なくお声がけ下さい。

命日や月命日に依頼される方、お彼岸、お盆の前などに依頼される方など人によってさまざまです。お花も命日の時はいつもよりちょっと豪華にしたい……、などというご要望もございます。すべてのご要望にお応えできないかもしれませんが、お参りできない皆様のお気持ちに少しでも寄り添えるよう努力しております。

マスク着用についてですが屋外にいる時などはマスクを外しておりますが、ポケットにはいつもマスクをしをのばせております。皆様が気にならないようスタッフ一同気を付けて対応させていただいております。もし気になることなどございましたらお知らせください。

「ちょっと見ない間に老けたね」というのはお断りです。

(墓苑事業部 森)

お申込み・お問い合わせ

梅窓院墓苑電話:03-3404-1230 E-mail:info@expert.co.jp

お檀家さんに  
伺いました

令和5年 春彼岸会にて

『ご先祖様からのご縁を繋いで』

ご先祖様が元々郡上とご縁があり、梅窓院さんには昔からお世話になっております。今日の春彼岸の郡上物産展でもお買い物をして、また郡上とご縁を深められた気がいたします。梅窓院さんのお墓は暗くどんよりした雰囲気ではなく、明るく風通しが良いので、墓参をしても気持ちの良いところが素敵ですね。

発行 梅窓院  
発行日 令和5年9月1日  
発行人 中島 真成  
編集 梅窓院 広報檀信徒部  
住所 〒107-0062  
東京都港区南青山2-26-38  
電話 03-3404-8447  
F A X 03-3404-8107  
ホームページ <https://www.baisouin.or.jp/>  
E-Mail [jodo@baisouin.or.jp](mailto:jodo@baisouin.or.jp)  
題字 中村康隆元浄土門主  
総本山知恩院第八十六世門跡

行事予定

秋彼岸会法要

9月23日(土・祝) 寄席 13時～ 祖師堂  
法要 14時～ 祖師堂

※詳しくは3面をご覧ください。

第84回 念仏と法話の会

10月5日(木) 13時(受付開始12時30分) 観音堂

法話 大切な人の死からいのちを学ぶ

講師 東京教区 浄心寺住職 佐藤 雅彦 上人



6月15日(木)第83回念法会の様子

※詳しくは別紙チラシをご覧ください。

十夜法要・演奏会「浄土の調べ」

11月18日(土)

法要後は、東京三田・大信寺ご住職 中村孝之上人・之音企画による法然上人の想いを旋律に載せた「浄土の調べ」を、声楽・ピアノの演奏とともに楽しみ下さい。

※詳しくは十夜号でお知らせします。